

議 事 録

会 議 名	平成28年度 第3回みのかも定住自立圏構想共生ビジョン懇談会
日 時	平成28年10月7日(金) 午後1時30分～午後3時30分
会 場	美濃加茂市生涯学習センター203号室

●参加者(敬称略)

<ビジョン懇談会委員>

- ・加藤武志(会長)
- ・高嶋 舞
- ・岸田眞代
- ・林 尚史

<実施主体関係者>

- ・坂祝町 【こども課】伊藤マリ子、兼松邦彰
- ・富加町 【半布里】大竹 航 【産業環境課 産業環境グループ】川崎勝則
【教育課 教育グループ】日比野昌弘、島田崇正
- ・川辺町 【川辺ポートコミュニティ】杉山 洋
- ・七宗町 【若葉会】塚本照通 【でか金倶楽部】長良和士
【飛騨川流域まちづくりの会】井戸和就
- ・八百津町 【RAINBOWCHILD2020 実行委員会】西田優太
- ・白川町 【白川町観光協会】藤井宏之 【企画課】大岩裕樹
- ・東白川村 【地域振興課 地域振興係】渡辺泰司

<町村定住自立圏担当者>

- ・坂祝町 総務課 野村浩貴
- ・富加町 総務課企画グループ 亀山和彦
- ・川辺町 企画まちづくり課 馬場 誠
- ・七宗町 企画課 渡辺岳志
- ・八百津町 総務課政策調整係 吉田昌伸
- ・白川町 企画課 藤井充宏
- ・東白川村 総務課 安江透雄

<美濃加茂市>

- ・美濃加茂市長 藤井浩人
- ・産業振興課 山田智也(みのかも魅力発信!名古屋交流拠点事業)
- ・文化振興課 村瀬英彦(里山アートプロジェクト)
- ・土木課 日比野一也(Kiso ジオパークにぎわい創出事業)
- ・環境課 岩田佐江子(生物多様性地域連携促進事業)
- ・まちづくり課 加藤慎康(まちづくりコーディネーター)
- ・定住自立圏推進室 室長 山田尚樹、佐合芳文、村雲洸佑、川上明里

●議 題

1. 開会（あいさつ、本日のスケジュール・進め方について）
2. 平成29年度第2次共生ビジョン重点事業実施計画について（協議）
3. 第2次共生ビジョン第3回変更について（協議）
4. その他
5. 閉会

●発言内容（要約）

《あいさつ》

（市長）

お忙しい中、委員の皆さまも、関係者の皆さまも、各地からお集まりいただき、感謝申し上げます。

いよいよ予算を立てる時期となり、市の庁内でも新年度に向けた調整をし始めている。行政にとっては毎年行われる日常の事項だが、市民・町民や民間団体にとっては、事業も終わっていないのに新年度の予定を組むことに違和感があることと思う。しかし、来年度の事業費を得るためには避けて通れないことであり、データに基づいた予定を立て、ビジョン懇談会での意見を取り入れた上で、議会にしっかり説明できるように理論づけして進めてほしい。加えて、今年度実施できなかったことを来年度に期待し、夢のある事業にしてもらいたい。

また、この事業が都市圏へのPRをも含まれているということも、再認識してもらいたい。正直なところ、名古屋圏に対するPRが出来ている事業が少ないように思う。話題に上ることだけが良い事とは限らないが、メディアに取り上げられ、圏域の内外から期待されるような事業に膨らまさなければならない。

ぜひ本日の場をうまく活用し、形にできるよう実行してほしい。

（事務局）

本日のスケジュールと進め方について説明。時間配分は次第のとおり。

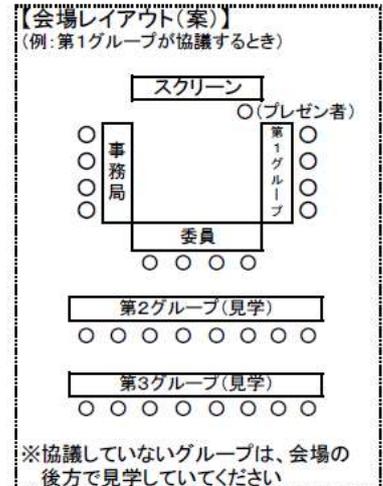
15事業を3グループのジャンルに分け、担当者が事業計画のプレゼンを行い、グループ内の全ての担当者が発表を終えた後に、ビジョン懇談会委員と協議・意見交換をする。

■平成29年度第2次共生ビジョン重点事業実施計画(プレゼン・協議・意見交換)の進行について

グループ単位で順番に実施

15事業を3グループに分け、グループごとに順番に事業計画についてプレゼン・協議・意見交換していきます。**協議しないグループは会場後方で見学し、他団体の事業内容や委員との意見交換の内容を参考にしてください。**

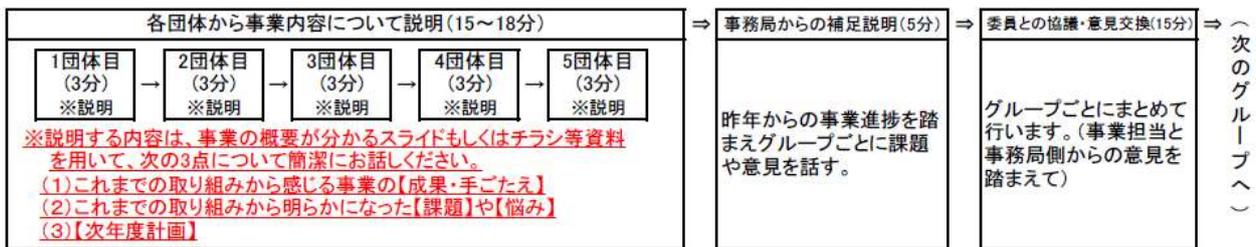
第1 G	13:35 ～ 14:10 (35分)	交流の場の提供とレッキーマラソンコース沿いの環境整備事業 でか金を媒体にした地域づくり事業 「龍神さんが棲む箱庭のまち」まちづくり事業 ポート王国プロジェクト事業 名古屋市民をみのかも定住自立圏域へ招くツアー事業	(七宗町) (七宗町) (七宗町) (川辺町) (白川町)		
	第2 G	14:10 ～ 14:45 (35分)	里山再生プロジェクト事業 Kisoジオパークにぎわい創出事業 「織田信長の東美濃攻略」を活用した歴史PRマンガ作成事業 みんなで子育て応援事業 地域情報放送事業	(美濃加茂市) (美濃加茂市) (富加町) (坂祝町) (美濃加茂市)	
		第3 G	14:45 ～ 15:20 (35分)	おんさいEXPO事業 里山アートプロジェクト事業 みのかも魅力発信！名古屋交流拠点事業 生物多様性地域連携促進事業 野外フェスティバルからはじまる新しい地域コミュニティ事業	(富加町) (美濃加茂市) (美濃加茂市) (美濃加茂市) (八百津町)



説明は各団体3分、協議・意見交換はグループごとにまとめて行う

グループごとに、団体は事業の説明を行い(3分)、グループすべての団体の説明が終わったら、委員との協議・意見交換を行います。

説明する内容は、下記の(1)～(2)についてお話しください。



《平成29年度第2次共生ビジョン重点事業実施計画について》

<第1グループ>

◆事業担当者からの説明◆

■若葉会(交流の場の提供とレッキーマラソンコース沿いの環境整備事業)

【成果・手ごたえ】

- ・出場ランナーや地域住民らから称賛やアドバイス等を受けることがあり、会員のモチベーションがあがっている。
- ・コース沿いの河川の整備が進み、川遊びをする人が増えた。
- ・当事業を通して、美濃加茂市三和小学校と七宗町神淵小学校の児童らとの、交流の場を作る事が出来た(6月19日に実施)。
- ・ホテルの餌となるカワニナを放流したことで、成虫の数が増えた。
- ・コース沿いの木の伐採・整備を行ったことで、道に飛び出してくる動物との衝突事故が減った。

【課題・悩み】

- ・会員は11名いるが、平均7～8名の参加にとどまり、人手不足である。
- ・木の伐採後の、樹木の廃棄処分方法として薪を200束作ったが、今のところ5束しか販売できていない。

- ・一部の地権者の理解が得られず、立木の伐採ができない。

【次年度計画】

- ・伐採、草刈り、枝打ち、河川整備の環境整備（継続作業）を行う。
- ・引き続き三和・神淵小学校の交流の場をつくり、三和町のカワニナ養殖場の清掃美化を手伝う。
- ・平成29年度では、三和町「源氏ほたるを守る会」の協力のもと、七宗町にもカワニナの養殖場を作ることを計画している。

■でか金倶楽部(でか金を媒体にした地域づくり事業)-----

【成果・手ごたえ】

- ・この夏、アクア・トトぎふの夏休み企画にて、金魚の展示を行ったところ、都市圏からも反応があり、でか金の他に七宗町自体に興味を持ってもらえた。
- ・上記の波及効果として、新聞社やTV局から取材があり、広く周知することができた（中日新聞・NHK岐阜）。
- ・美濃加茂市、坂祝町、川辺町など、圏域内に水槽を多く設置してもらうことができ、坂祝町からは「金魚を見て癒される」等、金魚を飼うことによる新しい目線の意見を得ることができた。
- ・地元の神淵中学校では、「でか金倶楽部」という部活動ができ、子どもたちと飼育の楽しさを共有できる場が生まれた。
- ・名古屋パルコで開催された、「スキ♡カモ」イベントにてブースを設け、名古屋圏の人にでか金を周知することができた。
- ・今年の10月30日に開催する七宗町ふるさと祭りで、でか金の自慢大会を行う。11月には美濃加茂市の市民まつりにも出展予定。

【課題・悩み】

発表なし

【次年度計画】

発表なし

■飛騨川流域まちづくりの会(「龍神さんが棲む箱庭のまち」まちづくり事業)-----

【成果・手ごたえ】

- ・美濃加茂市 日本昭和村でも神淵茶の試飲や販売ができた（おみやげ部会）。
- ・町内の花壇整備が進み、新しい場所の拡張ができつつある（てしごと部会）。
- ・昨年度購入した車両を活用し、高齢者の買い物支援を行いつつ、今年度は依頼を受けて砂利入れ替えなど、墓の整備を行った（おたすけ部会）。
- ・美濃加茂市里山アート事業と協力し、日本昭和村でジャズコンサートを開催した（いやし部会）。
- ・飛水峡の草刈り作業を行った（おもてなし部会）。

【課題・悩み】

- ・発表なし

【次年度計画】

- ・納古山の整備を美濃加茂市三和町と協力して行っていく。平成30年を目途に、マップを作製した上で、両方の登り口から山へ登れるように整備していく予定。

■川辺ボートコミュニティ(ボート王国プロジェクト事業)-----

【成果・手ごたえ】

- ・昨年度、艇庫の塗装、今年の2月にはボートアカデミーを創設できた。
- ・今年度はデッキ周辺の舗装を完了する予定。

【課題・悩み】

- ・艇庫の老朽化により、更新の必要性があること。

【次年度計画】

- ・平成29年では、施設内のエアコンの整備とダブルスカル（2人乗りボート）用のボートの購入を予定している。
- ・ボートアカデミーでの研修を通して、選手らにボート教育を行い、ボート人口を増やしたい。

■白川町観光協会(名古屋市民をみのかも定住自立圏域へ招くツアー事業)-----

【成果・手ごたえ】

- ・昨年度に引き続き、名古屋圏住民に白川町や当圏域を周知できたことで、今年度ではリピーターの参加もあること。
- ・事業開始前と比べ、当町の魅力を圏域外に発信できつつあること。
- ・当事業とは別だが、当事業に関わっている地域おこし協力隊を通じて名古屋圏の学生と交流が生まれ、今後のツアー事業にも組み込めるような基盤ができてきていること。
- ・今年度はまだ下期のツアーを控えているが、住民とツアー客との様子を見てみると、とても良い手ごたえを感じている。

【課題・悩み】

- ・特になし

【次年度計画】

- ・平成29年度では大学生や就農者を対象としたツアーを計画しており、「ファンづくり」「移住者向け」「体験」などのジャンルを予定している。
- ・平成29年度から東白川村と協力して行うことになった。青空見聞塾、ふるさと企画などの地元団体の協力を得て、東白川村をめぐるツアーを18回予定している。

◆事務局からの意見◆

共生ビジョンに位置付ける事業は、連携市町村内で協働して行っていくものなのだが、昨年度からの実績や上半期までの動きを見ていると、情報共有が不足しているように感じる。年度当初の計画や事業の進捗、予算の積算等が、連携相手から見ると、主体市町村が現在何を進めているのかが不透明となっている。これでは、連携を取ることで生じる新たなアイデアや事業展開が期待できないことから、連絡を密に取って事業を進めていく必要があると思う。

◆ビジョン懇談会委員からの意見・事業担当者からの質問等◆

(高嶋 舞委員)

情報共有不足を問題視されているが、事業の情報共有のツールは何を使っているのか？

(事務局)

全体の情報共有としては、各事業の担当者全員で話し合う「プロジェクトリーダー会」のみ。あとは各事業担当者同士で個別に連絡を取り合っている状態だ。改善の必要性を感じている。

(高嶋 舞委員)

ならば、情報をより密接にするために、FaceBook など SNS のグループを作成し、関係者同士で気軽に情報共有できる環境を作るのが良いと思う。

(林 尚史委員)

ツアー事業（白川町）に参加した人は、その後、継続した交流はできているのだろうか？

(白川町観光協会)

お礼の手紙などと一緒に、次のイベントのリピートを狙って案内を出している。

(林 尚史委員)

若い世代を招くことをメインにしているのなら、インターネット SNS を活用するのが有効だ。ファンページを作るなどをし、参加者がわざわざ情報を検索しなくても、自動的に新しい情報を得られるような仕組みがあると良いと思う。

(加藤慎康氏)

各事業、地域と交流できていることはすばらしいことだ。しかし一方、この事業が補助の手を離れ、自主事業として進めて行くことになった場合、財源をどのように確保しようとしているのか？ 各事業の実施主体団体に聞きたい。

(若葉会)

当会では、予算を4等分して期ごとに使っている。大きな買い物は出来るだけ年度はじめに使用している。カワニナは七宗町が毎年購入しており、それを若葉会が引き取って事業を進めている。

(でか金倶楽部)

予算のあるうちに大きな額の備品を購入し、補助の無くなった後は自費で対応する予定だ。

(飛騨川流域まちづくりの会)

おたすけ部会の活動では、お礼を渡したいとの声もある。しかしそれでは会の目的に沿わないことから、寄附金という形でいただいている。寄附金なので額は少ないが、ある程度はそれでまかなっていただけたら良いと思う。

(川辺ボートコミュニティ)

現在、財源の補助を受けているとはいえ、補助金が交付されるのはその年の事業実施後であり、毎年年度初めには財源の確保に苦労している。苦労しないようにしていくことが課題だと実感している。

(白川町観光協会)

当事業は地域おこし協力隊の手によって、企画・運営している。我々としては、まず彼らがこの地に定住できなければ、移住・定住施策は成功ではないと思っている。現在、協力隊の一人が、自分の住んでいる家を民泊できるように改装し、関係する資格などを習得した。これをもって、町内で生計を立てて定着できるよう、自立を目指している。安定した収入源と、この事業で得た名古屋圏の学生とのつな

がりを通じて、今後も事業が続いていけるようにしていきたい。そのために、来年度は彼らの定着につながるような、ツアーメニューとなるようにしていきたいと思っている。

(岸田眞代委員)

昨年度1年間の実績と、来年度に向けた計画の中で、それぞれ何を成果とし、何が課題となっているのが明確になっている事業と、そうではない事業が散見している。いつまでにどこまで到達すること(目標とその成果)、それができない場合の不足をどう補うかを明確にすることが大切だと思う。

(美濃加茂市長)

9月に総務省から定住事業にPDCAサイクルを適用せよとの達しがあり、岸田委員の言うように、成果を考慮すべき事態となった。各事業だけでこれを適用していくわけではないが、次年度予算にどう反映していくのかの流れを取り入れたい。この一連の流れは、事務局がビジョン懇談会委員へ提示していくべきだ。事業提案団体によっては、「PDCA」とは聞き慣れない単語であるが、市町村担当にたずね、うまく繋げていただきたい。

また、加藤慎康氏からも言われたように、収入についてももう一度見直してほしい。特に、毎年必要とする固定した予算については、いつまでも収入を期待されていても、担保出来ない可能性もある。

おおむね3～5年の間にスポンサーを付けたり、行政が行っている事業にとって代わるものを目指して予算を確保したり、その必要性を訴えて、市町村長が単独費でも実行するべきものだと感じてもらえるように働きかける等ができると思う。

このグループだけに限らず、全ての事業がこの2点について今一度検討していただきたい。

<第2グループ>

◆事業担当者からの説明◆

■美濃加茂市農林課(里山再生プロジェクト事業)-----

【成果・手ごたえ】

- ・竹林整備に必要な竹の破砕機を共同で購入したのだが、破砕した竹には抑草効果があることが分かった。整備後の竹林は今後、タケノコの収穫イベントなども実施できると思う。
- ・徐々に竹林がきれいになるにつれ、地域住民の方から「地域の里山を自分たちで整備したい」との気持ちが生まれた。
- ・都市圏(現在は春日井市止まり)から里山整備に興味を持った若者が現れ、地域住民と共に里山整備を通じた交流が生まれた(整備後に食事を共にするなど、密な関係も築けた)。

【課題・悩み】

- ・里山整備作業をする地域住民は60歳以上であるため、今後は若い世代の参加を呼び掛けたい。

【次年度計画】

- ・可茂種苗組合の協力のもと、アベマキのコンテナ苗を育成している。広葉樹によるコンテナ苗は初の試みであり、うまくいけば来年度に植樹を行いたい。(当事業は鳥獣被害を減らすことを目的とし、竹林整備後の広葉樹林の復活を次の目標としている)
- ・今後は、地域のまちづくり協議会と協力し、伐採後の木や竹の処理として、堆肥や薪、シイタケの原木など、活用を広めていきたい。

■美濃加茂市土木課(Kiso ジオパークにぎわ創出事業)-----

【成果・手ごたえ】

- ・(ハード事業) 坂祝町におけるソーラー照明灯の設置は今年度で完了できる見込み(今年度6基設置で完了)である。
- ・(ソフト事業) 予定していた川の勉強会、森の勉強会、川の安全教室の3つのイベントを実施できた。
- ・(ソフト事業) 民間団体によるイベントもたくさん実施されている。燈籠流しやマルシェ(市場)のほか、11月には人気の高いスイーツウォークが開催される予定(今年も600名の定員がすぐに埋まってしまった)。

【課題・悩み】

- ・美濃加茂市における案内表示板の設置は、昨年度1か所しかできなかった。

【次年度計画】

- ・来年度では、ウォーキングコースの延長整備として、新太田橋と今渡ダム(美濃川合発電所)までの川沿いを整備する。これが完成すれば、坂祝町から今渡ダムまで8kmもの遊歩道が整備される。

■富加町教育課(「織田信長の東美濃攻略」を活用した歴史PRマンガ作成事業)-----

【成果・手ごたえ】

- ・成果品を完成させることが今年度の目標であるが、すでに8割が完成できている。
- ・昨年度、マンガを作るに当たって調査した結果、新しい事実が判明し、これも1冊にまとめる予定。
- ・可児市が山城をテーマに事業を興しており、10月9日に可児市内でイベントを開催する。富加町もブースを出させてもらえることになり、マンガや関係する山城についてPRしてくる予定だ。

【課題・悩み】

- ・今後、どのようにPRしていくかが大きな課題である。その打開策として平成29年度では、マンガの講談化と各地でのPRについて、犬山市のNPO団体に相談している。また、美濃加茂市より、市民ミュージアムで原画展や資料展等をしてみてはどうかとの話があり、協議を進めている。

【次年度計画】

- ・今年度末、マンガの完成に合わせて、資料調査において協力いただいた金子拓氏を招いて、記念講演会をし、同時に一般向けのレクチャー講座も開催する。
- ・将来的な展望として、スマートフォンの位置情報ゲーム「城めぐり」内のイベント等を利用して、この事業をPRできないかと思っている。10月9日に開催する可児市の山城イベント内で、このアプリの提供企業も参加することから、当日に打ち合わせをする予定。

■坂祝町こども課(みんなで子育て事業)-----

【成果・手ごたえ】

- ・昨年度から今年度にかけて、坂祝町福祉会館内でコミュニティカフェを運営している。
- ・今年度10月から、「ママ!パワーアッププログラム」と、「託児ボランティアプログラム」による人材育成講座を開催予定。「託児ボランティアプログラム」では美濃加茂市5名、坂祝町7名が参加。「ママ!パワーアッププログラム」では、美濃加茂市11名、坂祝町2名が参加することになった。

【課題・悩み】

- ・コミュニティカフェは、坂祝町内に限定してしまっているの、広いエリアで集客できるようになりたい。
- ・講座によって育成した人材が活動できる場を検討する必要がある。

- ・「ママ！パワーアッププログラム」では、予想以上に坂祝町からの参加が少なかった。

【次年度計画】

- ・今年度、各6回の講座を終え、美濃加茂市こども課も含めてアンケートを取り、講座の見直し等をしていく予定。

■美濃加茂市秘書広報課(地域情報放送事業)-----

【成果・手ごたえ】

(FMらら)

- ・町村は年1～14回、イベントや街の情報などを発信し、美濃加茂市では平日の朝2分間のヘッドライン、毎週広報職員による市政情報番組と専門職による番組を放送。月1で市長番組を放送した。
- ・この10月に番組編成をし、9月まで放送していた「姫Biz」という番組全てと市長番組の時間を5分削り、新しいパーソナリティ(田中慈人氏)による番組を、毎週土曜日に放送しはじめた。
- ・10代がより興味を持ってもらえるように、田中氏の番組の前に、市内の加茂農林高等学校の現役学生にもパーソナリティを務めてもらうことになった。
- ・FMららの認知度は市内で67%あり、サイマル放送用のアプリケーションのダウンロード数は、9月現在7,400件となり、今年目標(5,500件)を大きく上回ることができた。

【課題・悩み】

- ・ケーブルテレビにおいては、市内の加入率は25%を下回るが、白川町では108%を越えている。これはケーブルテレビに加入せずとも、地上デジタル放送やBS放送が見られることが関わっていると思われる。
- ・ケーブルテレビは有料放送なので、少しでも加入率を上げるために、より多くの市町村情報を放送し、情報の充実化を目指したい。

【次年度計画】

- ・引き続き加入率やダウンロード数の増加をめざし、番組を制作する。

◆事務局からの意見◆

関係者との連絡調整や連携が出来ている事業が多く、順調に進んでいるように思う。定住自立圏事業としてより発展していくため、連携の視野を広げ、圏域内での効果の波及を考えて進めてほしい。

◆ビジョン懇談会委員からの意見・事業担当者からの質問等◆

(加藤武志委員)

里山再生プロジェクトの発表で、都市圏の若者と地域の人が交流したと聞いたが、地元の若者の参加はあったのだろうか？

(美濃加茂市農林課)

残念ながら20～30代といった若者は参加していない。今のところ、40代後半が一番若い世代だ。しかし、60歳代の住民らの呼びかけで40代の参加者が出てきたこともあり、今後そこから広がってほしいという願いがある。

(岸田眞代委員)

前回のビジョン懇談会の視察を含め、成果のある事業と、成果や改良策が見えにくい事業がある。

坂祝町の事業は、前回の視察での協議が生かされているように見えなかったが、見直す点を明確に記してほしい。

また、地域情報連携事業は、目標と現段階の位置が見えにくい。定住人口を増やすため、どんな理想を目指しているのかを明確に示してほしい。

(坂祝町こども課)

正直、講座が終わらないことには、次の目標が立て辛い現状だ。託児ボランティアの人材育成では、思いのほか、40代の現役子育て世代からの反応があることから、これからの組み立て方で大いに発展できる可能性が出てきた。

一方、職場復帰を目指す人材の育成を図る「ママ！パワーアッププログラム」では、予想以上に坂祝町民からの参加が無く、衝撃を隠しきれない。しかし募集において気付いたのは、可児・加茂地域に発行される「Kanisan club」という情報誌から講座の情報を得て応募に至った人が多く、情報の発信方法について、再考の余地が出てきたと思う。

(美濃加茂市秘書広報課)

この事業は、圏域住民間のつながりの充実を目的としているため、定住人口増加という意味においては、その目標に当てはまらないと思う。

しかし、自分のまち以外の放送を聞いているのかと言われてたら、視聴していないのだとも思うので、より放送を聞いてもらえるように、お互いのまちの紹介番組が必要だと感じている。また、最近熊本などの災害を受けて、災害時における「ラジオ」という情報収集手段を有効活用する案を考え始めている。来年度、市内だけでなく圏域全体でアンケートを取り、利用者がもっと増える策を講じることで、より活用方法が増えると思う。そのためにも、単純な視聴率よりも、サイマル放送のダウンロード数も含めて、増やす事業を実施していきたい。

(加藤武志委員)

番組への視聴者の反応は？

(美濃加茂市秘書広報課)

視聴者によって好き嫌いがあるため、「面白さ」を比較するのは難しい。しかし、例えば出演するパーソナリティの個性が生きるような演出をしたり、番組改変の度に出演者の見直しを行っている。

(高嶋 舞委員)

次のステップへ向かうために、先行事例を調べて、そのノウハウを取り入れて行ってほしい。ただ真似をするのではなく、事例から引き出してふくらます工夫が必要だと思う。例えば放送事業では「やねだん」を事例に、住民参加の仕方を学ぶ事もできるし、マンガ事業では地域の巻き込みを含めて、静岡県「ウナギ芋」から学べると思う。

坂祝町の事業ですが、「ニーズがあるのか、発信力が足りないか」のどちらかが要因だと思う。他の地域で子育て支援をしている人材を活用して、ニーズ調査をするのも一つの手だと思う。

(林 尚史委員)

現在、海外含めて「景観」をキーワードに観光業を見直す動きが出ている。景観の良い場所は、軽井

沢を筆頭として、資産価値が落ちにくい。こういった面からも、事業展開の進め方を変えられると思う。例えば、Kiso ジオパーク事業では、案内板や照明灯の設置工事があるが、通常では実用的・機能的なものを重視しやすい。しかしここで景観として美しいのかを考慮し、デザインに力を入れることで、他の地域とも差別化しやすく、メディアも食いつきやすくなると思う。

<第3グループ>

◆事業担当者からの説明◆

■半布里(おんさいEXPO事業)-----

【成果・手ごたえ】

- ・まもなく開催という状態で、現況報告になる。
- ・参加チームは37チーム(1,023名)の踊り手が集うことになった。県内、三重県、愛知県、長野県、京都府など、今年度の「日本ど真ん中祭り」の受賞チームが多数参加することになった。
- ・美濃加茂市8ブース、富加町6ブースが店を出す。

【課題・悩み】

- ・事業実施前につき、未定。

【次年度計画】

- ・事業実施前につき、課題含めて未定。

■美濃加茂市文化振興課(里山アートプロジェクト事業)-----

【成果・手ごたえ】

- ・巨大稲わらアート事業では、巨大な稲わらアートを3体作成予定。製作ボランティアを募集したところ、30名ほど集まり、10月から制作し始めている。今後、稲わら細工のワークショップを行ったり、展示等をする予定。
- ・能楽堂活用事業では、今年度は「狂言」をテーマとし、8月11日に野村又三郎氏を招いて講演を実施した。夜間にも関わらず120名もの人が集まった。また、同日の午前中に小中学生を対象にした狂言のワークショップを行い、5名の児童が狂言を体験し、夜の講演で披露した。
- ・ミノカモ学生演劇祭は、都市圏から若者を招き、演劇祭を行う事業だ。8月末まで募集をしたところ、愛知県、東京都、沖縄県から8団体が参加を申し出てくれた。今後、12月のワークショップでシナリオを作成し、3月18日、19日に発表を行う。
- ・地域文化連携事業では、地域住民らによる新しい文化の発見と地場産業を支える事業。今年度は23団体が参加し、昭和村園内でステージ発表等を行う。

【課題・悩み】

- ・地域との連携・つながりはうまくいっているが、都市圏とのつながりが思うように行えていない。

【次年度計画】

- ・発表なし

■美濃加茂市産業振興課(みのかも魅力発信!名古屋交流事業)-----

【成果・手ごたえ】

- ・昨年度は基礎ツールを製作する準備期であり、「スキ♡カモ」という事業名やロゴ、イラストやパンフレット、無料モニターツアーなどを行った。アンケートから読み解くと、都市圏の人は、プロモ

ーションを行うと、より圏域に興味を持ってもらいやすい結果となった。

- ・今年度、9月16日～9月30日の間、名古屋パルコにて「スキ♥カモ」マーケットを開催。物販、食堂限定メニュー、体験コーナーなどのジャンルを行ったが、食堂や体験の方が人の目につきやすいジャンルだと感じた。詳細報告はまだなので、後日分析したい。

【課題・悩み】

- ・観光・特産品を切り口とした事業の中で、どうやって移住・定住を意識してもらうのか、その手法に悩んでいる。
- ・都市圏におけるプロモーション活動の効果測定が困難であること。
- ・PRのために効果的な情報誌等への掲載にコストがかかりすぎること。
- ・体験型プログラムを継続的に提供するための、スケジュールの組み立てが難しいこと。
- ・(美濃加茂市に限るが)移住定住促進施策が無いため、市の移住定住をPRできるツールがないこと。

【次年度計画】

- ・来年度を「拡充期（転換準備期間）」として位置付けており、今年の様子を見返して、プログラムの質を高めることを行う。
- ・継続的にプロモーションと勧誘プログラムを実施し、特に体験型プログラムに力を入れるなど、新しいツールを導入することで拡充したい。

■美濃加茂市環境課(生物多様性地域連携促進事業)-----

【成果・手ごたえ】

- ・昨年度のe-kamon まるごと環境フェアでは、美濃加茂市と加茂郡との合同開催で、出展者と来場者との交流の機会が生まれ、圏内・圏外の来場者に、圏域内の自然や環境に関する情報発信の場となった。
- ・今年度も11月6日に実施予定。出展は圏域全体から32件あり、環境省生物多様性リーダーによる講演会も開催する。
- ・レッドデータブックの作成（自然環境基礎調査）では、計画通り1年目の調査を完了。岐阜大学の協力を得られた他、希少な植物の生息を確認することができた。
- ・今年度は引き続き調査を行い、環境フェアや巡回展などで結果を展示する。
- ・岐阜新聞にコラム「加茂の自然」を連続掲載していただけることになった。

【課題・悩み】

- ・発表なし

【次年度計画】

- ・引き続き環境フェアを開催し、圏域全体から市民団体、学校、企業等の出展を促し、住民の関心を高め、情報発信や交流の場となるように調整する。
- ・レッドデータブックは来年度でおおむねの調査を終了する。31年度のデータブック作成完了に向け、今度は専門家による委員会を発足し、分析と掲載する対象生物の選定を行う予定。

■RAINBOW CHILD 2020 実行委員会(野外フェスティバルからはじまる新しい地域コミュニティ事業)

(当日のVTRを上映)

【成果・手ごたえ】

- ・8月11日(木・祝)9:00～21:00にフェスを実施でき、関係者含めて2,000人もの人が参加した。
- ・全国的に知名度やブランド力を上げることができた。

【課題・悩み】

- ・発表なし

【次年度計画】

- ・来年度は山の日が土日と連なって3連休になることから、地域を回るようなバスツアーを企画している。
- ・別事業で知り合った東海圏内の団体らとタイアップをして、本格的に移住を考えている人に向けた窓口として、ホームページなどを活用していきたいと思っている。

◆事務局からの意見◆

第3グループはイベント型の事業が多いため、会場へ来た人を圏域内や開催地に引き込む工夫をしてほしい。「都市圏とのつながり」をより認識し、交流人口を増やす工夫と共に、参加した人の圏域内外の割合を把握できるような体制作りをしてほしい。

また、ビジョンが終了した際に収入面が心配される。継続可能となるような計画・スケジュールを作してほしい。

◆ビジョン懇談会委員からの意見・事業担当者からの質問等◆

(RAINBOW CHILD 2020 実行委員会)

イベント内で、移住定住に関する問い合わせが数多くあった。すぐに紹介できるような空き家情報や移住定住制度が掲載されたホームページなどを準備してほしい。

(加藤武志委員)

スキカモの事業でも「紹介するツールが無い」との意見があった。美濃加茂市としてはどう考えている？

(美濃加茂市長)

正直な話、美濃加茂市では自然増による人口増加があり、移住定住施策による定住人口増加を図る制度等を作っていない。今年度、平成27年度までビジョン懇談会委員であった加藤慎康氏に、市のまちづくりコーディネーターとして来てもらっている。参考にしたいので、他の町村の移住定住施策の話を聞かせてもらえるだろうか？

(白川町企画課)

平成27年度から移住交流サポートセンターを設立し、移住定住の窓口としている。町職員とそのOB、地域おこし協力隊2名の4名体制で運営している。空き家情報の集約も行っており、実際に移住へ辿り着いた例もいくつかある。

また、同じ地域おこし協力隊による交流事業として、森の幼稚園のようなイベントを年数回実施している。インターネットを使った発信をするなど、若い世代向けの施策を行っている。

(七宗町企画課)

当町では、「田舎暮らし体験」を、名古屋圏や東京圏の住民向けに実施している。畑仕事や、納古山への登山など、田舎でしか体験できないような内容の体験イベントだ。

また、移住定住奨励金制度もある。先日の RAINBOWCHILD の定住ブースにて、この制度を展示していたところ、思った以上に反応があった。昨年度は同イベントで観光 PR をしていたが、あまり反響が薄かったので、この反響に驚いている。実際に空き家バンクへの登録もあった。

(八百津町総務課)

今年度から、移住定住を専門的に担当する職員を増員し、現在、サイトを構築している。構築には今年度いっぱい掛かるとのことで、来年度から本格的に動き出せるものとみている。

(富加町総務課)

当課が窓口となり、移住定住を担当している。

昨年度、フリーペーパーの一面を活用して名古屋圏に富加町を紹介し、特設サイトを立ち上げた。また、移住定住の奨励金制度もあり、町内の遊休地 100 坪を分譲地として 13 区画整備した。

空き家については土木課管轄で、中々連動しづらい部分がある。この点については、個人的には、来年度の機構改革等に期待している。

(美濃加茂市)

たくさん事例を教えてください感謝する。

みのかも定住自立圏事業は、「定住」に特化した事業だ。それゆえに、最後には定住に結び付けてほしい思いがある。それは、各事業担当団体に移住定住をまるごと任せるという訳ではなく、その窓口は各自自治体担当や、それを請け負ってくれる事業者が対応すべきだ。このように役割をはっきりさせて、効率よく進めてほしい。この点は、事務局がうまく取りまとめる必要があると思う。

また、「取り合いの良さ」もあると思うので、移住者に対するアプローチを、がめついほど積極的に行ってほしい。そうすることで、良い連携が生まれ、ゆくゆくは圏域全体を PR できるものと思っている。

<総括・感想>

(高嶋 舞委員)

すべての重点事業の中で、移住定住を呼び込む性質があって、理想の実現に一番近い事業が「スキカモ」の事業だと思う。先ほどサイトを見てみたが、このサイトのページに各市町村の移住定住関係のバナーを貼って、とりまとめても良いと思う。大きな PR の前に、まだやれることがいくつかあると思う。

(林 尚史委員)

メディア世界の関係者としての意見を言わせていただくのなら、RAINBOW CHILD の発表は動画の映像を交えて、うまくプレゼンしていると感じた。スキカモのサイトも可愛らしくできている。情報発信をするなら、より知ってもらいやすく、より関心を持ってもらうような工夫が大切だ。

自分も昔、昆虫図鑑に興味があり生物多様性の事業も面白いと思っているが、文字だけではなく、動画のアーカイブやグラフィックを活用し、ビジュアル面にも力を入れてみたら良いと思う。

(岸田真代委員)

事業を動かす側に、都会の人を引き込むことで、より定住の可能性が大きくなると思う。結果も必要だが、プロセスを大事にしてほしい。

補助金として交付している団体については、ビジョン期間が終了したときに、予算をどのように回収

するかが気になる。RAINBOW CHILD はどのように考えている？

(RAINBOW CHILD2020 実行委員会)

基本は自己投資で現在の事業費を賄っている。今回のイベントでブランドの確立が出来たと思うので、今後は事業費を回収しつつ運営したいと思う。

(加藤慎康氏)

エリア連携できるとより良くなると感じている。例えば、美濃加茂市の加茂野町に住む人は、坂祝町から情報を取ってきたり、イベントに参加したりという傾向がある。美濃加茂市の三和町と七宗町も同じで、エリアのターゲットを絞ることも作戦になると思う。

また、せっかくすごい著名人が来ても、そのまちだけで完結してしまうのは勿体ない。全体を見て考えられると良いと思う。

《第2次共生ビジョン第3回変更について・諸連絡》

(事務局)

事業費の変更等、軽微な変更に伴う第2次みのかも定住自立圏構想共生ビジョンの変更手続きを、予定どおり4月1日付けで行う。主な内容は、東白川村が主催するR41カード事業の削除と、東白川村が白川町のツアー事業へ参入する旨を記載する。事業費や内容変更の確認にあたって、担当課と調整を行うので協力を依頼したい。

市長の話にもあったが、9月23日付で総務省から定住自立圏構想の要綱改正の通知があった。今年度から、圏域で実施する事業について目標値を定め、成果達成度を求められることになる。各事業や「みのかも定住自立圏域」自体にも、達成度等を求められるものと予想している。そこで、今後は達成度を考慮した上でビジョン懇談会の承認を受け、検証結果のもと次のビジョンへ反映していくことが必要だと考えている。首長懇談会を活用し、全市町村が積極的にこの成果に参画してほしい。

また、ビジョンに掲載される事業費は単純な事業補助金ではないことから、今後は人口増加やもたらす効果への重要性を強く求められることとなる。ビジョン懇談会を得て内容を審査した結果、達成の見込みが極めて低かった場合は、ビジョンから外れてしまう可能性を否定できない。「住んでみたいまち」「住み続けたいまち」の実現に向け、担当職員らと共にKPIに意識して事業を進めてほしい。

現在、予算編成時期に入っている。予算編成にあたって負担金額等の変更がある場合は、連携町村へ密な連絡・情報共有を行い、漏れの無いよう努めてほしい。

(10月27日講演会のお知らせ)

(終了)